

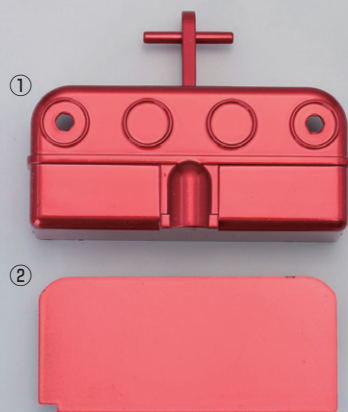
今号の作業

エアクリーナーケースを組み立てる



今号では、エアクリーナーケースを組み立てる。実車では内部に空気中のほこりや水分をろ過するためのフィルターが組み込まれるが、本モデルではあくまで外観上のアクセント。今後の組み立て作業をスムーズに行うための確認作業もあわせて紹介しておく。

今号のパーツ



- ①エアクリーナーケースA
- ②エアクリーナーケースB

※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。
※「組み立てガイド」で紹介しているパーツは実際に付属するパーツと一部仕様異なる場合があります。

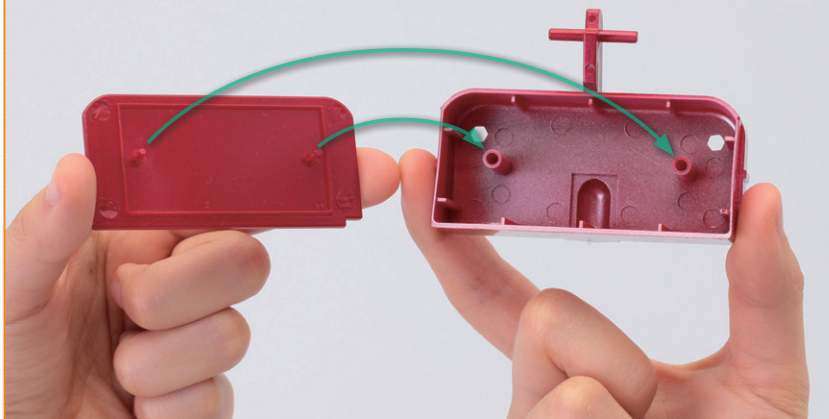
使用する道具

・特になし

用意するもの

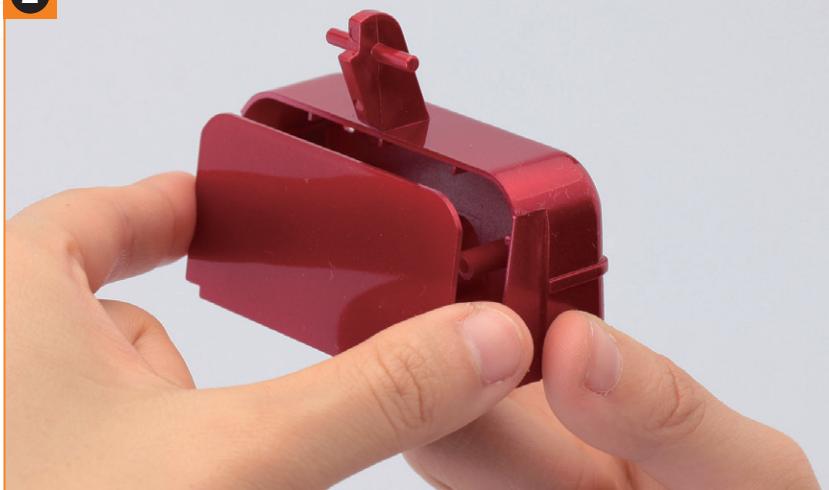
・キャブレター(17号で組み立て、保管しておいたもの)

STEP
1



まず、エアクリーナーケースを構成する2つのパーツ形状を確認。箱型の①エアクリーナーケースAの裏側には2本のポストが設けられ、プレート状の②エアクリーナーケースBの裏側には2本のピンがある。この両者をはめ合わせることになる。

STEP
2



エアクリーナーケースAのポストと、エアクリーナーケースBのピンの位置を合わせ、真っすぐに差し込む。傾いた状態で差し込むと、ピンが破損してしまうので注意しよう。

STEP
3

エアクリナーケースBの、ピン真後ろになる部分を両手の指先でしっかりと押さえ、ピンをポストに押し込む。

STEP
4

エアクリナーケースAの背面の縁部分と、エアクリナーケースBの表面に、段差が生じていない状態(=「ツライチ」と呼ぶ)になっていればOKだ。

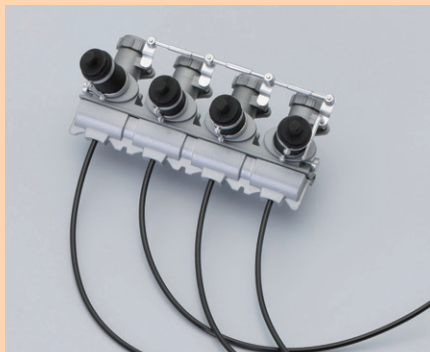
今号の完成



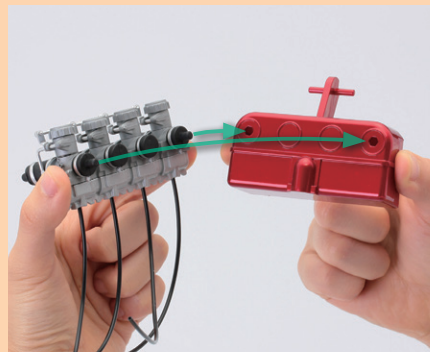
これで今回の作業は完了となる。この状態で保管してもいいし、続いて紹介する「キャブレターとのフィッティング確認」を行ってもいい。

× キャブレターとのフィッティング確認 ×

17号で組み立てたキャブレターを用意し、エアクリナーケースに取り付けてみよう。この段階で、パーツ同士の組み合わせ方をチェックしておけば、メインフレームへ取り付ける作業がスムーズになる。



17号で組み立てたキャブレターを用意し、各部のパーツが確実に取り付けられていることを確認する。



キャブレター背面に取り付けた接続チューブEの突起を、エアクリナーケースA表面の左右に設けられた穴へ差し込む。



接続チューブとエアクリナーケースAとの間にすき間が開かないよう、キャブレター全体を真っすぐに押し込む。



エアクリナーケースにキャブレターが取り付けられた。メインフレームへは、この状態で取り付けることになるので覚えておこう。なお、この状態での保管は不安定なので、キャブレターを取り外した状態に戻して保管しよう。